

経営分析比較表（簡易水道事業を含む）

項 目	年度別数値				算 出 式	備 考
	No.	令和4年度	令和5年度	令和6年度		
有収率(%)	1	87.4	87.4	87.6	$\frac{\text{年間総有収水量}}{\text{年間総配水量}} \times 100$	年間総配水量に対する収入となった水量の割合、比率は高いほど良い
負荷率(%)	2	89.7	90.8	90.1	$\frac{\text{一日平均配水量}}{\text{一日最大配水量}} \times 100$	需要変動の比率を示す、比率は高いほど施設効率が 高い
施設利用率(%)	3	63.3	62.9	62.1	$\frac{\text{一日平均配水量}}{\text{一日配水能力}} \times 100$	施設の利用が有効かつ適正に行われているかを見る、比率は高いほど良い
供給単価(円/㎡)	4	156.12	157.32	184.91	$\frac{\text{給水収益}}{\text{年間総有収水量}}$	有収水量1㎡当たりどれだけの収益を得ているかを表す
給水原価(円/㎡)	5	172.46	175.00	180.85	$\frac{(\text{経常費用}-\text{長期前受金戻入益})-(\text{受託工事費}+\text{材料不用品売却原価})}{\text{年間有収水量}}$	有収水量1㎡当たりどれだけの費用がかかっているかを表す
料金回収率(%)	6	90.5	89.9	102.2	$\frac{\text{供給単価}}{\text{給水原価}} \times 100$	有収水量1㎡当たり掛かる費用を料金で回収できているかどうかを示す
職員一人当り給水人口(人)	7	4,564	4,305	4,252	$\frac{\text{現在給水人口}}{\text{損益勘定所属職員数}}$	職員数が適正であるかどうかを見る、数値は大きいほど良い
職員一人当り有収水量(㎡)	8	440,995	416,816	413,417	$\frac{\text{年間総有収水量}}{\text{損益勘定所属職員数}}$	職員1人当たりの生産量を見る、数値は大きいほど良い
職員一人当り営業収益(千円)	9	73,628	73,548	81,377	$\frac{\text{営業収益}-\text{受託工事収益}}{\text{損益勘定所属職員数}}$	職員1人当たりの売上高を見る、数値は大きいほど良い
料金収入に対する給与費の割合(%)	10	11.3	11.5	10.7	$\frac{\text{職員給与費}}{\text{料金収入}} \times 100$	料金収入と職員給与費の割合
総収支比率(%)	11	104.6	107.4	115.0	$\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$	事業全体の収支状況を見る、比率は100%以上で高いほど良い
経常収支比率(%)	12	105.0	108.0	115.7	$\frac{\text{営業収益}+\text{営業外収益}}{\text{営業費用}+\text{営業外費用}} \times 100$	経常収支の状況を見る、比率は100%以上で高いほど良い
営業収支比率(%)	13	89.1	88.4	100.4	$\frac{\text{営業収益}-\text{受託工事収益}}{\text{営業費用}-\text{受託工事費用}} \times 100$	営業収支の状況を見る、比率は100%以上で高いほど良い
企業債償還元金対料金収入比率(%)	14	37.8	37.1	32.5	$\frac{\text{建設改良のための企業債償還元金}}{\text{料金収入}} \times 100$	企業債発行額が事業規模に対し適正かどうかを見る、比率は低いほど良い
企業債利息対料金収入比率(%)	15	6.6	6.0	4.9	$\frac{\text{建設改良のための企業債利息}}{\text{料金収入}} \times 100$	同上
企業債元利償還金対料金収入比率(%)	16	44.4	43.1	37.4	$\frac{\text{建設改良のための企業債元利償還金}}{\text{料金収入}} \times 100$	同上